

あじさい

鹿角手をつなぐ親の会
第61回総会議案書
会報
平成29年4月

「地域が育み、街の中で生きる」 鹿角手をつなぐ親の会・事務局・鹿角市花輪字柳田 41-1
TEL 0186 (22) 1787 FAX (22) 4030

平成29年 新年会盛会に

〈北鹿新聞・1月27日〉

角 「笑顔でいい年に」

鹿 親の手をつなぐ 新年会で和やか交流

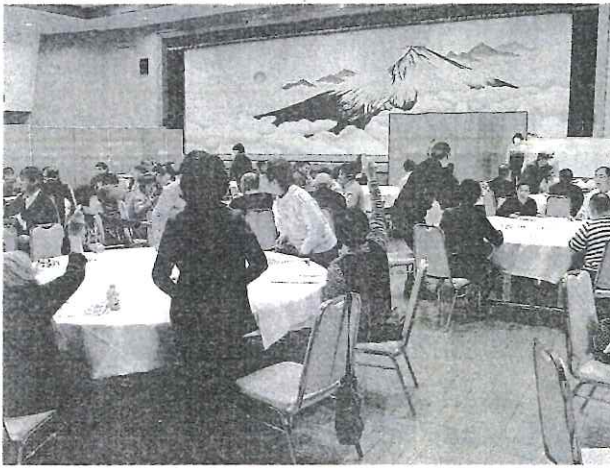
知的障害のある人たちを支える家族や支援者でつくる「鹿角手をつなぐ親の会」(兔澤正文会長)の新年会がこのほど、鹿角市花輪のエスポワールかづので開催され、参加者約80人がゲームなどを楽しみ

ながら和やかに交流した。

鹿角地区の親の会は県内で最も早い昭和32年に組織された。現在の会員は鹿角市、小坂町の151人。障害者が安全・安心に暮らせる社会の実現に向け、県大会や元氣フェスタへの参加、福祉施設の視察、法制度の研修会開催といった活動に取り組んでいる。

新年会には障害者や家族、福祉施設関係者などが参加。はじめに、昨年7月、神奈川県相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で発生した大量殺人事件を「風化させない」との思いを込め、犠牲になった19人へ黙とうをささげた。

兔澤会長は「昨年は悲しく、悔しい事件があったが、花輪はやしがユネスコ無形文化遺産に登録される明るいニュースもあった」と振り返り、「今年は酉年。明るく元気に



ゲームなどで楽しく交流した新年会(エスポワールかづの)

安心して暮らせるよう、そういうことを取り込みながら、すてきな笑顔でいい年にしたい」とあいさつ。この後、参加者がテーブル対抗ゲームやビンゴゲーム、お年玉付きラオケ大会などで楽しいひとときを過ごした。

すてきな笑顔で!



〈第1号議案〉

平成 28 年度 事業報告

平成 28 年 7 月 26 日に相模原市で起きた「津久井やまゆり園」事件は特に痛ましく、悲しく、そして悔しくて、いたたまれない事件でした。

犯人（容疑者）は精神鑑定拘置後、殺人罪など 6 つの罪で起訴されました。私たちは法による裁定を静観しながら全国連合会や県育成会の動向を注視して、必要があれば共同行動をとります。

そして、私たちはこうした残忍で非道な事件が二度と起きないように願い、決して忘れず、風化させないための行動を続けていかなければなりません。

さて、当会の事業活動をふりかえると、①花輪ふくし会の各施設との連携では、障害者センターを窓口にして、利用者や保護者の要望を届けて改善してもらい、東山学園や鹿角苑の行事に参加し、当会の総会や新年会には施設長や職員に参加してもらって親睦、交流を図り成果をあげることができました。

②本人活動を支援する事業としては、6月の総会で本人たちが協力して「フルーチェ」を作って参加者にデザートとして提供して喜ばれ、褒められて自信を持つことができたようでした。9月下旬には仙台市へ出かけて東北ブロック大会・本人部会に参加し、東北の友達と交流してきました。

③子育ては親にとって最も大切な仕事です。特に幼児期から学童期は悩みや迷いが絶え間なく続きます。更に学校を卒業して社会に巣立つ時の進路の決断にも悩みます。そこで、こうした子育てを終えた会員の豊富な子育ての経験や失敗談を話題にして、10月に「会員の世代間交流・懇談会」を実施して語り合いの場を作り成果をあげました。

また、6月には比内支援学校校長、かづの校副校長をはじめ両校の職員との懇談会に出席して、生徒の進路決定に係る問題などについて意見・情報交換をしました。

しかし、児童多機能型事業所の視察会をやれなかったことを反省すべき点として上げております。

④「障害者と高齢の親の同居施設の普及を望む 72 歳の主婦の投書記事」を新年会の資料として、参加者に配布しました。歳をとることは何人も絶対に避けられませんので誰もがこの大きな問題に直面します。「自分たちはまだ大丈夫だ。その時になったら行政が何とかしてくれる」と考えている親が多いと思い、この記事を提供して高齢化に対応する意識の改革につながることを願い、期待しています。

⑤あんず部会の皆さんには今年も意欲的に頑張ってもらいました。

8月26日、北秋田市鷹巣と大館市道目木の施設を視察して、施設入所のメリット、デメリットについて話し合いました。昼食会もコーヒータイムも話が弾み、意義深い視察・研修会でした。

9月の元気フェスタにも参加してコーヒー店の運営に主体的に携わり、企画力、行動力を発揮して売り上げを伸ばしました。今年度は、新年会の運営にもあんず部会の若い力を結集して取り組んで会場を盛り上げてもらい、笑顔がいっぱいの楽しいひとときを過ごすことができました。

⑥幹事等役員と会員の交流・懇談会は、昼食会として12月に行いました。

15名が出席して、世間話から建設的な意見・情報交換まで予定時間を超えて懇談しました。

⑦その他にもブルーベリー栽培支援、県育成会県北地区協議会の研修会、比内支援学校かづの校生の保護者相談会、あんず部会学習会などに会員の積極的な参加協力があり、今年度の事業計画は円滑に遂行されたものと総括して報告します。

〈第2号議案〉

平成 28 年度 収支決算書

(収入の部)

項目	区分	予算額	決算額	増減	摘要
会費		290,000	300,500	10,500	賛助会員会費の増
助成金		60,000	56,124	△3,876	市社協 30,000円 県育成会 26,124円
寄付金		45,000	64,500	19,500	寺坂共防 兎澤 長橋 泉谷 若佐 土井
特別会費		650,000	582,200	△67,800	総会 東北ブロック大会 新年会ほか
雑収入		20,000	10,681	△9,319	県北地区協議会 熊本地震義援金
繰越金		133,249	133,249	0	
借入金		0	75,000	75,000	会長から借入れ
合計		1,198,249	1,222,254	24,005	

◎ 増減欄は、決算額－予算額 △は 予算額より減収したことを示す

(支出の部)

項目	区分	予算額	決算額	増減	摘要
通信費		65,000	48,041	16,959	議案書 情報紙 封書等郵送費
印刷費		62,000	67,761	△5,761	議案書 総会出欠ハガキ 長3封筒印刷
会議費		6,000	7,420	△1,420	幹事会のお茶・コーヒー代
交通費		14,000	17,000	△3,000	県育成会総会 研修会出席旅費
事務局手当		60,000	36,000	24,000	局長手当を減額し会計手当と併給
賃借料		24,000	48,000	△24,000	上記減額分を賃借料に含めた
負担金		60,000	54,358	5,642	県育成会負担金 払込み・振込み手数料
消耗品費		30,000	30,309	△309	コピー用紙 プリンターインク代
行事参加費		780,000	693,954	86,046	総会 東北B大会 新年会 視察研修会他
積立金		50,000	50,000	0	1年定期預金へ繰入れ
雑費		23,000	13,180	9,820	慶弔費 県大会協賛広告料他
予備費		24,249	0	24,249	
返戻金		0	75,000	△75,000	会長へ返戻
合計		1,198,249	1,141,023	57,226	

◎ 増減欄は、予算額－決算額 △は 予算額を超過したことを示す

◎ 収入総額 1,222,254円 - 支出総額 1,141,023円 = 残額 81,231円 (翌年度へ繰越)

(積立金)

27年度末積立額	28年度積立額	28年度末積立額	摘要
250,143	50,000	300,143	利息 143円 利率 0.01%

(県育成会受託本人活動支援事業＝ブルーベリー栽培支援ほか)

受託額	支払金額	差引残高	摘要
82,940	82,940	0	諸謝金 6,480 弁当代 24,700 消耗品等 48,443 返戻 3,317

(本人活動支援事業基金)

項目	収入金額	支払金額	差引残高	摘要
繰越金	29,804	0	29,804	
雑収入	6	0	29,810	預金利息
元気フェスタ	59,800	35,579	54,031	(収入) 喫茶 49,400 会員出品支援 10,400
新年会	0	30,003	24,028	ビンゴゲーム経費(景品、カード、ゲーム機)
合計	89,610	65,582	24,028	

会計監査報告書

平成 29 年 3 月 30 日、本会事務局において現金出納簿、預金通帳、振替受払通知票、領収証等の関係帳簿及び書類並びに保管現金について監査を実施したところ、その内容は適正に処理されていました。

平成 29 年 4 月 1 日

鹿角手をつなぐ親の会	監 事	竹 澤 圭 子 ㊞
鹿角手をつなぐ親の会	監 事	村 木 たへ子 ㊞

絵本「神さまからのおくりもの」

……あ と が き……

この絵本のなかのゆうたんは、ダウン症として生まれた長男（41歳）をモデルに、15年前書きおろしていたものです。

今までずっと机の引き出しにしまったままでした。

しかし、近年「出生前診断」が出来る様になり、お腹の中の赤ちゃんがダウン症とわかれば9割以上の方が産むのをあきらめていると知り、悲しみで胸が一杯になります。

以前新聞面に、ダウン症として生まれた人は幸せかどうかアンケート調査をするという記事を目にしました。

結果が不幸と出れば産むな!! 何でもいいのか…

出生前診断に関する報道の数々はダウン症だけが取りあげられ、まるでダウン症を産ませない為の検査としか思えません。

私はダウン症の息子を授かったお陰で、本来なら歩む事の出来ない人生を歩み、息子から沢山の事を学び、息子によって自分が自分らしく生かされている事に、日々幸せを感じています。

どんな障害があろうとみんな必要としてこの世に生まれてくる善の命です。

一人一人の大切な命に

どうぞ光がさしこみます様…

そんな思いから、今この絵本を出版致しました。沢山の方の心に届いたら幸いです。

平成二十八年 十二月

加藤 倫子

〈三種町手をつなぐ育成会会員〉

障害者と高齢の親の同居施設を

主婦（72）

私たち夫婦には、重度の知的障害と身体障害のある45歳の娘がいます。娘は幼児と同じ程度の能力しかありません。週に1回ほど、てんかん発作に襲われます。親が倒れたら、娘はどうなるのでしょうか。将来の不安が募るばかりです。

娘は週に6回、デイサービスを利用し、平日の日中は対応できています。でも日曜や夜間の世話は、70歳を超えた私たち夫婦には重労働で、体力も限界に近づきつつあります。娘を入所施設に預けた方がいいのかもしれない。しかし、それではいたたまれません。できる限り、そばで娘を見守っていたいと思うのです。

重度障害者と高齢の親と一緒に安心して暮らせるような入所施設が身近にあれば、どれだけありがたいことでしょう。

親は無理をせずに、安心して子どもを見守ることが出来ます。その合間を見て、施設内でボランティアとして他の入所者の介助などのお手伝いもできます。入所者の家族同士で交流も図れます。

このような施設が全国に普及することを望んでやみません。

絵本「神さまからのおくりもの」の購読を希望される方は、兎澤会長へ連絡をしてください。〇一八六・二五・二四二七

一部 千円（送料込・数に限りあり）

〈第3号議案〉

平成29年度 事業計画(案)

障害者総合支援法の基本理念を実現するために、県育成会及び県北地区協議会と共同しながら、地域の関係機関・団体との連携も深めて本会の目的の達成に努めます。

本会は、知的障害のある人の尊厳を護り、障害があることによって分け隔てられることなく、望む地域で当たりまえに暮らし、地域の、社会の一員として自立し共に生活する社会、即ち「共生社会」の実現をめざし、支援法が本人にとってより良い制度となるような活動を展開します。

また、高齢者や子ども、障害者ら向けの福祉サービスを一体で受けられる「地域共生社会」の実現に向け、厚生労働省がまとめた工程表とその一体化法案の動向を注視し、情報を把握して会員へ提供します。

会員と家族や支援者が手をつなぎ、様々な問題を解決していく活動や事業を通して、地域の理解を得ながら、知的障害者の自立と福祉の増進に寄与するため、会員が一丸となって事業を推進します。

① 第60回秋田県大会実行委員会を立ち上げます

平成30年の第60回手をつなぐ育成会秋田県大会は鹿角市・郡で開催される予定となっています。この大会を円滑に運営するために「地元実行委員会」を8月中旬に立ち上げます。全会員の人知を結集して大会の成功に向けて取り組みたいので、前向きな協力をお願いします。

② 「共生社会」構築のための運動を進めます

私たちが最も関心を持っている我が国の障害者制度改革の目的が「共生社会」の実現にあり、冒頭で述べているように厚労省は人口減と高齢化を見据えた「一体的な福祉サービスを受けられる地域共生社会」の実現をめざす工程を進めることとしています。

私たちがこの「地域共生社会の実現」に向けて全国育成会連合会や県育成会と一体となって、正確な情報を得ながら知的障害者の自立に向けた要求など一体化法案づくりに深く関わる活動を展開します。

③ 花輪ふくし会及びその施設との連携を深めます

私たちはこれまでも、鹿角地域で暮らしている障害者が利用する施設などで支援法の基本理念が実行され、彼らにとって「より良い制度となっているか？ 否なら問題は何か」などについて、花輪ふくし会と話し合い、協力して問題の解決に努めてきました。

これからは更に、上記②に関わって、例えば、現行制度では施設等を利用している障害者は高齢になると介護施設に移らなければならないが、一体化法案では、指定を受けた事業所（施設等）ならそのまま利用できることになる。こうした問題については、事業所（施設等）の判断や方針だけでなく、利用者や保護者の声を尊重して決定してもらえるように、日頃から密な連携に努め、情報などを共有するようにします。

④ 障害者と保護者双方の高齢化に対応する活動を進めます

今は元気で在宅支援を続けている保護者も高齢になると支援が難しくなります。また、親亡き後の成年後見制度の利用など双方の高齢化に伴う不安が山積します。

「障害者と高齢の親の同居施設の普及を望む72歳の主婦の投書記事」（別掲）は他人事ではありません。

こうした親たちの切実な声を受けて、厚労省は、福祉の縦割りを排して一体でサービスを提供できるようにする「地域共生社会」の導入を進めることとしました。目的はサービスを一体化するだけではなく、例えば高齢者は、子育てを支援することで社会的な貢献ができ、子どもは高齢者や障害者と関わることで健全な成長につながるという効果が期待されます。

いずれにしても、この「地域共生社会」は主役となる地域住民の理解がなければ実現は難しいので、私たちは市民への情報提供を進めながら理解を求めつつ、行政や花輪ふくし会等とも連携して実現に向けて行動します。

⑤ 次代を担う、あんず部会の活動を重視し、組織の強化に努めます

昨年度の「あんず部会」の積極的な活動については事業報告に記述しており、今年度の活動にも大きな期待を寄せています。

一方で、あんず部会員の後に続く幼児・児童の母親たちの参加を勧めてきましたが、親の会加入の意義を理解してもらえず、「子育てなどで困ったことや不安なことがあればネットで調べるから大丈夫です」という声もあり、時代が変わってきていることを痛感しつつ、会の活動に関心を持てるようになるまで待つこととします。

だからといって、現部会員に親の会の将来を託して重荷を負わせようとせず、部会員個人が置かれている家庭環境や職場環境に合わせて、無理のない部会活動を支援していきます。

併せて、あんずの会が設立された頃、会員の夫たちの「親父の会」も組織されていたと聞いているので、この「親父の会」の復活をめざし、親の会とあんず部会の組織強化を図ります。

⑥ 幹事等役員と会員の交流・懇談を深めます

一昨年に続けて実施した幹事等役員と会員の交流・懇談会はホテルでの昼食会としましたが、大きな成果があったので今年度も開催します。

会員間のコミュニケーションを図り、建設的な、画期的な意見等は早急に具体化するようになります。

比内支援学校
かづの校

相談支援事業
鹿角市受託施設
障害者センター

NP法人
かづの活動センター
NPOの活動センター
発の家の家

障害者支援施設
更望園

障害者支援施設
(東京都委託施設)
鹿角苑

指定障害者支援施設
東山学園

「地域が育み、
街の中で生きる」
ことを目指しています

29年度会費納入のお願い

会費 普通会員（保護者）の方は
2,000 円以上

賛助会員の方は
1,000 円以上

納入方法 同封の「払込取扱票」でお近くの郵便局から払い込んでください。



〈第 4 号議案〉 平成 29 年度 収支予算 (案)

(収入の部)

項目	区分	①予算額	②前年度 予算額	③前年度 決算額	増減 (①-②)	摘要
会費		300,000	290,000	300,500	10,000	普通会員 72 名 賛助会員 76 名
助成金		58,000	60,000	56,124	△2,000	市社協 県育成会
寄付金		60,000	45,000	64,500	15,000	
特別会費		600,000	650,000	582,200	△50,000	総会 新年会 視察研修会
雑収入		10,000	20,000	10,681	△10,000	
繰越金		81,231	133,249	133,249	△52,018	
借入金		80,000	0	75,000	80,000	年度当初の支払金不足を考慮
合計		1,189,231	1,198,249	1,222,254	△9,018	

◎ 会費免除者が普通会員には 7 名、賛助会員には 2 名おり、摘要欄の会員数には含まれていない。

(支出の部)

項目	区分	①予算額	②前年度 予算額	③前年度 決算額	増減 (①-②)	摘要
通信費		50,000	65,000	48,041	△15,000	郵送料 切手 ハガキ(値上含む)
印刷費		65,000	62,000	67,761	3,000	総会議案書 出欠ハガキ
会議費		15,000	6,000	7,420	9,000	幹事会等の飲み物代等
旅費・交通費		17,000	14,000	17,000	3,000	県育成会総会 研修会 (1泊)
事務局手当		36,000	60,000	36,000	△24,000	会計及び事務局手当
賃借料		48,000	24,000	48,000	24,000	出発の家(事務机・コピー機借上料)
負担金		56,000	60,000	54,358	△4,000	県育成会 会費等払込手数料
消耗品費		32,000	30,000	30,309	2,000	コピー用紙 プリンターインク他
行事参加費		700,000	780,000	693,954	△80,000	総会 県大会 視察研修会 新年会
積立金		50,000	50,000	50,000	0	
雑費		20,000	23,000	13,180	△3,000	県大会協賛広告料 慶弔費
予備費		20,231	24,249	0	△4,018	
返戻金		80,000	0	75,000	80,000	借入金の返戻
合計		1,189,231	1,198,249	1,141,023	△9,018	

(積立金)

28 年度末積立額	29 年度積立額	29 年度末積立額	摘要
300,143	50,000	350,143	利息 143 円 利率 0.01%

(県育成会受託本人活動支援事業＝ブルーベリー栽培支援ほか)

受託額	支払額	差引残高	摘要
90,000 円	90,000 円	0 円	諸謝金 7,000 円 弁当代 25,000 円 消耗品等 58,000

(本人活動支援事業基金)

項目	収入金額	支払金額	差引残高	摘要
繰越金	24,028	0	24,028	前年度比 △5,776 円
雑収入	2,005	0	26,033	預金利息 寄付金
元気フェスタ	60,000	36,000	50,033	(収入) 喫茶 50,000 会員出品支援 10,000
新年会	0	30,000	20,033	ビンゴゲーム等経費 (景品、賞品)
合計	86,033	66,000	20,033	

◎ 基金の残額が減少を続けている。

私たちは「津久井やまゆり園」事件を忘れてはならない！

神奈川県立津久井やまゆり園での事件について（声明文）

平成 28 年 7 月 26 日未明、障害者支援施設「神奈川県立津久井やまゆり園」（相模原市緑区、指定管理者・社会福祉法人かながわ共同会）において、施設入所支援を利用する知的障害のある方々が襲われ、19 人が命を奪われ、20 人が負傷するという未曾有の事件が発生しました。被害に遭われ亡くなられた方々に、衷心よりご冥福をお祈りするとともに、ご家族の皆様にはお悔やみ申し上げます。また、怪我をされ治療に当たられている方々の一日も早い回復をお祈り申し上げます。

抵抗できない障害のある人に次々と襲いかかり死傷させる残忍な行為に私たちは驚愕し、被害にあわれた方々やそのご家族の無念を思い、悲しみと悔しさにただただ心を震わせるばかりです。職員体制の薄い時間帯を突き、抵抗できない知的障害のある人を狙った計画的かつ凶悪残忍な犯行であり、到底許すことはできません。

事件は、当会会員・関係者のみならず、多くの障害のある方やご家族、福祉関係者を不安に陥れ、深く大きな傷を負わせました。このような事件が二度と起きないよう、事件の背景を徹底的に究明することが必要です。

今後、事件対応に関わる皆様には、まずは被害者及び被害者の遺族・家族、同施設に入所されている方々のケアを十分に行ってくださいようお願いいたします。その上で、事件の背景・原因・内容を徹底して調査し、早期に対応することと中長期に対応することを分けて迅速に行いつつ、深く議論をして今後の教訓にしてください。加えて、本事件を風化させないように今後の対応や議論の経過を情報として開示してください。

また、事件で傷ついた被害者やご遺族が少しでも穏やかに過ごせるよう、特に報道関係機関には特段の配慮をお願いします。

事件の容疑者は、障害のある人の命や尊厳を否定するような供述をしていると伝えられています。しかし、私たちの子どもは、どのような障害があっても一人ひとりの命を大切に、懸命に生きています。そして私たち家族は、その一つひとつの歩みを支え、見守っています。事件で無残にも奪われた一つひとつの命は、そうしたかけがえない存在でした。犯行に及んだ者は、自らの行為に正面から向きあい、犯した罪の重大さを認識しなければなりません。

また、国民の皆様には、今回の事件を機に、障害のある人一人ひとりの命の重さに思いを馳せてほしいのです。そして、障害の有る無しで特別視されることなく、お互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会づくりに向けて共に歩んでいただきますよう心よりお願い申し上げます。

平成 28 年 7 月 26 日

全国手をつなぐ育成会連合会
会長 久保 厚子

この世に「不要な命」は無い！

それぞれに個性があり、愛する家族がいます。

7 月 26 日、相模原市の知的障害者施設で入所者らが襲われ、19 人の方が犠牲になり、26 人が重軽傷を負い入院するという「地獄変相（絵図）」を観るような痛ましくて悲しい、そして悔しい事件が起きました。あまりのことに耳を疑いました。

犯人（容疑者）は「障害者なんていなくなればいい。安楽死させた方が幸せだ。」と言い、「障害者は周りの人を不幸にする」というナチスと同じ考えをもっていたようだ。

私たち大人の多くは、歳を重ねるとともに社会にもまれながら、するさなどを含めた生きるための知恵をつけて、生まれた頃の心が少しずつ濁ってきています。

しかし、彼らは生まれたときの無垢な心を持ち続け、人を疑ったり、騙したりする卑しさなどとは縁の無い生き方をしている、時に私たちに「人間らしさ」を示唆してくれます。生まれながらにして知的な面でハンディを背負ってきた子供たちは誰もが神の子であり、素敵な魅力、不思議な力をもっています。ただ、今の社会環境の中では彼らの素敵な魅力、不思議な力を発揮できないだけのことなのです。

「国連障害者の 10 年」などを経て、ハンディをもっている地域社会を構成する者の一人として地域で共に生きることが当たり前前の社会なのだ、地域の目が変わってきています。

これからも、私たちの活動で「地域との触れ合い」は欠かせないことだと強く感じています。

当会の上部団体「全国手をつなぐ育成会連合会」は、障害のある人向けのメッセージを出し、「もし誰かが『障害者はいなくなればいい』なんて言っても、私たち家族は全力でみなさんのことを守ります。ですから、安心して、堂々と生きてください」と呼びかけました。

今朝の新聞に「働く障害者虐待、倍増」の見出しがありました。雇用主や上司から虐待を受けた障害者は 970 人で、前年度の 483 人から倍増した。最賃未満で働かせたり、残業代を払わない経済的虐待のほか身体的虐待や心理的虐待を受けた人数も約 2～3 倍に増えた。

虐待を見つけた人に通報を義務付ける障害者虐待防止法が浸透したためとみられるようだ。

このように、障害者を見下し、尊厳を傷つける心無い人々がいるのが現実なのです。

保護者会員の皆さん！ 神様は、私たちに神の子を授けました。『神様に選ばれた親たち』を誇りに、力を合わせ全力でこの子供たちを守りましょう。

賛助会員の皆さん！ 神の子たちが素敵な魅力、不思議な力を出し切って自立し、地域から必要とされる社会にするために、これからも引き続き応援してください。

平成 28 年 7 月 28 日

鹿角手をつなぐ親の会 会長 兎澤 正文
(秋田県手をつなぐ育成会副会長)

鹿角手をつなぐ親の会会員の皆様

鹿角地区関係機関・団体等の皆様

私たちは、全力でみなさんを守ります。堂々と生きてください。



杜の都
仙台で
※東北ブロック大会※



編集後記

☆鹿角手をつなぐ親の会が設立されて満六十年が過ぎ、六十一回目の総会を開催できることを喜び、多くの先人のご苦勞を想い、感謝申し上げます。

記念誌などを発行するだけの財力と能力がないので、これまでの歴史を語る資料を整理して、あじさいⅡで若い会員に伝えていきます。

☆来年の第六十回県大会は、鹿角地区開催になります。八月には地元実行委員会を立ち上げ、力を合わせて、参加者の心に残る素敵な大会にしましょう。

☆冷たい風には、花は咲かない。かたくなな心には、花は開かない。暖かい風と
ふりそそぐ太陽がほしい。
そして、

ほのぼのと通い合う人間としての
つながりがほしい。

松下 幸之助